

# 静岡県西部の中小企業 景気動向 (2018年10~12月期の景況)

磐田市商工会

## 1、当資料の目的

会員企業の持続的発展を図るため、地域の景気動向を把握し経営革新等の支援をする際の基礎資料として活用する。

## 2、情報源

下記調査機関の調査結果を基に景気動向を取りまとめた。

①一般社団法人しんきん経済研究所発行 景況レポート 2018年10~12月期

②日本銀行静岡支店 静岡県の企業短期経済観測調査結果 2018年12月調査

## 3、調査概要

### ①一般社団法人しんきん経済研究所

- ・調査対象 静岡県西部地域の中小企業661社
- ・回収状況 回収数641社(回収率97.0%)  
(製造業327社、卸売業77社、小売業70社、建設業71社、サービス業38社、飲食等13社、不動産業45社)
- ・調査方法 調査表による面接聴取法
- ・調査内容 前期(2018年7~9月期)と当期(2018年10~12月期)との比較  
当期と比較した来期(2019年1~3月期)の予想
- ・調査時期 2018年12月3日~7日




### ②日本銀行静岡支店

- ・調査対象 静岡県内企業283社(大企業58社、中堅企業77社、中小企業148社)
- ・調査内容 前期(2018年7~9月期)と当期(2018年10~12月期)との比較  
当期と比較した来期(2019年1~3月期)の予測
- ・回答期間 2018年11月13日~12月13日)

### ③分析方法

景況判断の基準として、DI(Diffusion Index)による分析手法を採用している。  
各質問項目でプラス傾向(増加、上昇、好転など)割合からマイナス傾向(減少、下降、悪化など)割合を差し引いた数値を時系列で観察することにより景況を判断する手法。

#### 4、【全般】2018年10～12月期の概況

しんきん経済研究所の見解		
「業況DIは改善、引き続き高水準を維持」		
前期の業況	今期の業況	次期見通し
		
日本銀行静岡支店の見解		
「県内の業況DIは2期連続の横ばいのプラス14.0」		

無記入項目は日本銀行静岡支

業種	調査機関	調査数	前期の業況DI	今期の業況DI	次期見通し
全産業	しんきん経済研究所	641社	2.8	9.5	4.4
	日本銀行静岡支店	283社	14.0	14.0	10.0
製造業	しんきん経済研究所	327社	6.1	13.5	5.8
	日本銀行静岡支店	134社	20.0	14.0	9.0
小売業	しんきん経済研究所	70社	▲2.9	▲7.1	▲14.3
	日本銀行静岡支店	—社	6.0	17.0	12.0
建設業	しんきん経済研究所	71社	2.7	13.9	16.7
	日本銀行静岡支店	—社	7.0	7.0	3.0
飲食レジャー等	しんきん経済研究所	13社	▲35.7	▲15.4	▲15.4
	日本銀行静岡支店	—	—	—	—

店から公表されていない。

##### (1) 全産業の概況

###### ①しんきん経済研究所の調査結果

- ・ 県西部地域の中小企業の業況判断指数 (DI = 「良い」とみる企業の割合から「悪い」とみる企業の割合を引いた数値) は全業種ベースで9.5となり、2018年9月の前回調査値 (2.8) と比べて6.7ポイントの改善となった。業況の水準は引き続き高い。
- ・ 次期の業況DIは5.1ポイント悪化の4.4を見込む。

###### ②日本銀行静岡支店の調査結果

- ・ 静岡県内企業283社 (大企業58社、中堅企業77社、中小企業148社) を調査した結果、業況判断指数は全業種ベースで9月の前回調査に比べ横ばいの14.0だった。業況の水準は引き続き高い。米中貿易戦争が製造業に影響を落とす一方、非製造業が下支えした。
- ・ 次期の業況DIは4.0ポイント悪化の10.0を見込む。

###### ③双方の調査から

- ・ 県内企業の業況DIは前期に引き続きプラス水準を維持し、景況感は引き続き高い。
- ・ 両社の間には小売業のDI値に大きな差がある。日本銀行静岡支店の調査対象は大企業&中堅企業が48%を占めているためと推測する。(しんきん経済研究所の調査は中小企業が100%)

(2)	製造業	調査機関	前期の業況 DI	今期の業況 DI	次期見通し
-----	-----	------	----------	----------	-------

業  
種  
別  
の  
概  
況

①

しんき  
ん経済  
研究所  
の調査  
結果

- ・ 産業別では製造、建設、飲食レジャーが改善した。小売業は悪化となった。
- ・ 製造、建設はプラス水準にある。
- ・ 次期の産業別の業況DI予測は、建設業では更なる改善を見込む。一方製造業、小売業では悪化を見込む。

②日本銀行静岡支店の調査結果

- ・ 業種別では小売業が改善し、建設業は横ばい、製造業は悪化した。
- ・ 製造業、小売業、建設業の業況 DI はいずれもプラス水準にある。
- ・ 次期の業種別の業況 DI 予測は、製造業、小売業、建設業では4～5割の悪化を見込む。

③双方の調査から

- ・ 業種別では、製造業、建設業はプラス水準にあり好況である。
- ・ 小売業は、しんきん経済研究所の調査では、4.2割の悪化。一方、日本銀行静岡支店の調査では、11.0割の改善となっている。企業規模の大小によって景況感に差があると推測される。(日本銀行静岡支店の非製造業の調査対象は大企業&中堅企業が39%を占めている)

## 5、【製造業】2018年10～12月期の状況

しんきん経済研究所の見解

「7四半期連続のプラス水準を維持している」

前期の業況	今期の業況	次期見通し
		

日本銀行静岡支店の見解

「プラス14割の高水準、ただし米中貿易戦争が影を落とす」

製造業全般  良い－悪い	しんきん経済	6.1	13.5	5.8
	日本銀行静岡	20.0	14.0	9.0
売上高  増加－減少	しんきん経済	6.4	19.6	9.2
	日本銀行静岡	—	—	—
収 益  増加－減少	しんきん経済	▲0.6	12.0	0.9
	日本銀行静岡	—	—	—
販売価格  上昇－下降	しんきん経済	1.5	4.9	2.2
	日本銀行静岡	▲4.0	▲3.0	▲4.0
原材料価格  上昇－下降	しんきん経済	25.6	30.4	21.5
	日本銀行静岡	29.0	26.0	23.0
資金繰り  楽－苦しい	しんきん経済	▲2.7	▲1.5	▲4.0
	日本銀行静岡	—	—	—
人 手  過剰－不足	しんきん経済	▲30.8	▲33.5	▲31.8
	日本銀行静岡	▲23.0	▲27.0	▲30.0
設 備  過剰－不足	しんきん経済	▲21.3	▲19.1	▲18.8
	日本銀行静岡	▲4.0	▲5.0	▲4.0

※日本銀行静岡支店の売上高、収益、資金繰りの各 DI は公表されていない。

## (1) 製造業の概況

### ①しんきん経済研究所の調査結果

- ・製造業全般の業況 DI は 7.4 ㊦改善し 13.5 となった。7 四半期連続してプラス水準を維持した。
- ・次期の業況 DI は 7.7 ㊦悪化の 5.8 を見込む。
- ・売上高 DI は 13.2 ㊦の改善、収益 DI は 12.6 ㊦の改善を見込む。
- ・人手 DI は 5 四半期連続して -30 台を推移しており、人手不足感は引き続き強い。
- ・経営上の問題点（上位 3 点）  
人手不足、売上の停滞・減少、工場の狭小・老朽化
- ・当面の重点経営施策（上位 3 点）  
販路拡大、経費節減、人材確保
- ・調査員のコメントの主なものを下記する。  
夏頃よりも受注が増加している。（同意見複数）  
人材確保に悩まされている。（同意見複数）  
人手不足の影響により、残業が増加している。（同意見複数）  
人件費が高止まり傾向にあり、利益率は低下している。（同意見複数）  
台風による停電で、2 日間営業停止をした。BCP 対策が課題。（同意見複数）  
工場や設備など、新設や増設を検討している。（同意見複数）  
材料費などの値上がりにより、利幅が縮小している。（同意見複数）  
台風による停電で、2 日間営業停止をした。BCP 対策が課題。（同意見複数）

### ②日本銀行静岡支店の調査結果




- ・製造業全般の業況 DI は 6.0 ㊦悪化の 14.0 となった。

- ・次期の業況 DI は 5.0 ㊦悪化の 9. 0 を見込む。
- ・人手 DI は 4.0 ㊦悪化の 27. 0 となった。人手不足感は引き続き強い。
- ・米国と中国の貿易戦争が激しさを増し、世界経済の先いきには不透明感も漂う。

③双方の調査から

- ・製造業の業況 DI は引き続きプラス水準であり、過去と比べても高い水準を維持している。
- ・次期の業況 DI の見通しは両社共に悪化であるが、いずれもプラス水準を維持すると予想。
- ・人手不足感は引き続き強い。

## 6、【小売業】2018年10～12月期の状況

しんきん経済研究所の見解		
「業況 DI は 4.2 ㊦悪化し▲7. 1、次期は 7.2 ㊦悪化し▲14. 3 の見込」		
前期の業況	今期の業況	次期見通し
		
日本銀行静岡支店の見解		
「業界 DI は 11.0 ㊦改善し 17. 0 である。次期は 6.0 ㊦悪化し 12. 0 の見込」		

小売業	調査機関	前期の業況 DI	今期の業況 DI	次期見通し
業況 良い－悪い	しんきん経済	▲2. 9	▲7. 1	▲14. 3
	日本銀行静岡	6. 0	17. 0	12. 0
売上高 増加－減少	しんきん経済	7. 1	4. 3	▲1. 4
	日本銀行静岡	—	—	—
収益 増加－減少	しんきん経済	▲2. 9	▲1. 4	▲2. 9
	日本銀行静岡	—	—	—
販売価格 上昇－下降	しんきん経済	8. 6	7. 1	0. 0
	日本銀行静岡	—	—	—
仕入価格 上昇－下降	しんきん経済	21. 4	22. 9	12. 9
	日本銀行静岡	—	—	—
資金繰り 楽－苦しい	しんきん経済	▲8. 6	▲5. 7	2. 9
	日本銀行静岡	—	—	—
人手 過剰－不足	しんきん経済	▲27. 1	▲27. 1	▲22. 9
	日本銀行静岡	—	—	—

※

日本銀行静岡支店の売上高、収益、販売価格、仕入価格、資金繰り、人手の各 DI は公表されていない。

### (1) 小売業の概況

#### ①しんきん経済研究所の調査結果

- ・業況 DI は 4.2 ㊦悪化し▲7. 1 となり、マイナス幅を広げている。

- ・売上高 DI は 2.8 ㊦の悪化、収益 DI は 1.5 ㊦の改善となった。
- ・人手 DI は前期と同様 - 27.1 であり、人手不足感は引き続き強い。
- ・次期の業況 DI 予想は 7.2 ㊦悪化の - 14.3 となる。売上額 DI は 5.7 ㊦の悪化、収益 DI は 1.5 ㊦の悪化を見込む。
- ・経営上の問題点（上位 3 点）  
売上停滞・減少、同業者間の競争激化、人手不足
- ・当面の重点経営施策（上位 3 点）  
経費節減、売れ筋商品を取り扱う、宣伝・広告の強化
- ・調査員のコメントの主なものを下記する。  
台風による停電で被害が発生、災害対策の必要性を実感した。（同意見複数）  
人材確保に苦労している。（同意見複数）  
仕入価格の上昇が収益を圧迫している。（同意見複数、うなぎ、木材、食肉など）  
大型店、インターネット販売との競合が激しくなっている。（同意見複数）

### ②日本銀行静岡支店の調査結果

- ・小売業の業況 DI は 11.0 ㊦改善し 17.0 である。
- ・次期の業況 DI は 5.0 ㊦悪化の 12.0 を見込む。




### ③双方の調査から

- ・しんきん経済研究所の調査では、「業況 DI は 4.2 ㊦悪化し▲7.1 となり、マイナス幅を広げている」であり、日本銀行静岡支店の調査では、「業況 DI は 11.0 ㊦改善し 17.0 であり好況感が強い」となっている。

両調査に大きな差がある。その差は被調査会社の規模の大小によって景況感に違いがあるものと推測される。（日本銀行静岡支店の非製造業の調査対象は大企業&中堅企業が 39% を占めている）

しんきん経済研究所の調査結果が磐田地域の小規模小売業の実態に符合すると考える。

## 7、【建設業】2018年10~12月期の状況

しんきん経済研究所の見解		
「6四半期連続のプラス水準にある。次期は更に改善」		
前期の業況	今期の業況	次期見通し
		
日本銀行静岡支店の見解		
「業況 DI はプラス水準にある。次期は 4.0 ㊦悪化を見込む」		

建設業	調査機関	前期の業況 DI	今期の業況 DI	次期見通し
業況 良い－悪い	しんきん経済	2.7	13.9	16.7
	日本銀行静岡	7.0	7.0	3.0
売上高 増加－減少	しんきん経済	12.3	16.7	15.3
	日本銀行静岡	—	—	—
受注残 増加－減少	しんきん経済	13.7	22.2	11.1
	日本銀行静岡	—	—	—
収益 増加－減少	しんきん経済	4.1	13.9	12.5
	日本銀行静岡	—	—	—
請負価格 上昇－下降	しんきん経済	1.4	5.6	4.2
	日本銀行静岡	—	—	—
材料価格 上昇－下降	しんきん経済	30.1	44.4	30.6
	日本銀行静岡	—	—	—
資金繰り 楽－苦しい	しんきん経済	▲1.4	2.8	2.8
	日本銀行静岡	—	—	—
人手 過剰－不足	しんきん経済	▲38.4	▲41.7	▲40.8
	日本銀行静岡	—	—	—

※日本銀行静岡支店の売上高、収益、販売価格、仕入価格、資金繰り、人手の各 DI は公表されていない。

### (1) 建設業の概況

#### ①しんきん経済研究所の調査結果

- ・業界 DI は 11.2 ㊦改善の 13.9 となり、6 四半期連続でプラス水準となった。
- ・売上額 DI は 4.4 ㊦の改善、受注残 DI は 8.5 ㊦の改善、収益 DI は 9.8 ㊦の改善となった。
- ・人手 DI は -41.7 であり、人手不足感は引き続き強い。
- ・次期の業況 DI 予想は 2.8 ㊦改善の 16.7 となる。売上額 DI は 1.4 ㊦の悪化、収益 DI は 1.4 ㊦の悪化を見込む。
- ・調査員のコメントの主なものを下記する。
  - 台風の復旧需要により、売上・収益ともに増加した。(同意見多数)
  - 台風の影響で、仕入・調達・納期に遅れが出た。(同意見複数)
  - 民間工事を中心に業況は順調に推移している。(同意見複数)
  - 消費増税前の駆け込み需要に向けて対応していく。(同意見複数)
  - 人手不足が深刻な課題となっている。(同意見多数)

#### ②日本銀行静岡支店の調査結果




- ・建設業の業況 DI は前期と同水準であるプラス 7.0 を維持した。
- ・次期の業況 DI は 4.0 ㊦悪化の 3.0 を見込む。

#### ③双方の調査から

- ・建設業の業況 DI はいずれもプラス水準にあり好況である。

## 8、【飲食・宿泊・レジャー等】2018年10～12月期の状況

しんきん経済研究所の調査結果

しんきん経済研究所の見解		
「業界は改善、年末行事や大型イベントに期待」		
前期の業況	今期の業況	次期見通し
		

飲食・宿泊・レジャー等	前期の業況 DI	今期の業況 DI	次期見通し
業況 良好-悪い	▲35.7	▲15.4	▲15.4
売上高 増加-減少	▲21.4	▲23.1	▲23.1
収益 増加-減少	▲21.4	▲23.1	▲23.1
料金価格 上昇-下降	7.1	23.1	7.7
材料価格 上昇-下降	14.3	30.8	15.4
資金繰り 楽-苦しい	▲35.7	▲23.1	▲23.1
人手 過剰-不足	▲42.9	▲7.7	▲7.7

※

日本銀行静岡支店から当業界のDIは公表されていない。

### (1) 飲食・宿泊・レジャー業の概況

- ・業界DIは20.3ポイント改善の-15.4となった。
- ・売上高DIは1.7ポイントの悪化、収益DIも1.7ポイントの悪化となり、いずれもマイナス水準となった。
- ・料金価格DIは16.0ポイントの改善（上昇）、材料価格DIは16.5ポイントの悪化（上昇）であった。
- ・資金繰りDIは12.6ポイントの改善であるが、-23.1である。
- ・人手DIは35.2ポイント改善であり-7.7となった。人手不足感は弱まった。
- ・次期の業況DI予想は今期と同じ-15.4と見込む。売上高DI、収益DI双方とも今期と同じ-23.1を見込む。
- ・調査員のコメントの主なものを下記する。

台風等の自然災害により、売上・受注の減少があった。（同意見複数）

仕入れ値が上昇するなか、経費削減に取り組んでいる。（飲食）

外国人をはじめ、ラグビー、オリンピック関連に伴う需要に期待している。（宿泊）

カード決済などキャッシュレス対応を積極的に行っている。（宿泊）

フェイスブック、インスタグラム等 SNSで情報発信を強化している。（レジャー）

### <参考情報>

政府が2019年1月29日に公表した月例経済報告は次のような内容である。

景気の総括判断を「緩やかに回復している」と据え置いた。2012年12月から始まった景気回復期間について「戦後最長となった可能性がある」と指摘している。

円安を起点に改善した輸出を支えに、外需を取り込む企業が景気をけん引した。ただ、円安と財政支出に頼る回復の色合いは濃く、成長率の伸びは大きくない。「実感なき景気回復」との声もある。

（今回の景気回復の特徴は、成長率が低いことにある。期間中の年平均の実質成長率は1.2%。1965～70年のいざなぎ景気は11.5%、86～91年のバブル景気は5.3%。これまでの戦後最長だった02～



08年も1.6%あった。)

先行きは決して明るくない。景気回復の支えだった世界経済に陰りが見える。世界の景気判断を35ヶ月ぶりに下方修正した。足元では拡大が続く国内景気だが、米中の貿易摩擦やユーロ圏の減速などリスク要因が多い。